

降雨に伴う麦類の品質低下対策について

平成26年6月9日

経営技術課技術指導班

- 1 ほ場の排水に努める。
- 2 穀粒水分はビール大麦25%以下、六条大麦・小麦は30%以下になったら、晴天を待ち適期に速やかに刈り取りを行う。
なお、六条大麦と小麦は、天候等により刈り遅れによる品質低下が懸念される場合は、やや高水分（穀粒水分35%以下）で収穫する。この場合、通常より低めの温度で乾燥を開始する。
- 3 赤かび病の多発が懸念されるので、小麦では殺菌剤の追加散布を行う。なお、散布する場合は、殺菌剤の使用時期（収穫前日数）に留意する。
- 4 穂発芽や赤かび病の発生が見られるほ場、また倒伏の著しいほ場では刈り分けし、被害粒や未熟粒の混入防止に努める。